シンポジウム3
東京医科歯科大学の高気圧酸素治療の卒前教育と日常診療

柳下和慶[1)]　榎本光裕[1)]　小柳津卓哉[1)]
小島泰史[1)]　芝山正治[1)]　前田卓馬[2)]
宮本聡子[2)]　中野英美子[2)]　山本素希[2)]
後藤啓吾[2)]　大久保　淳[2)]

1)　東京医科歯科大学医学部附属病院　高気圧治療部
2)　東京医科歯科大学医学部附属病院　MEセンター

本学での高気圧酸素治療（HBO_2）は，国家プロジェクト「海中居住計画」に基づき，1966年第1種治療装置の導入に始まり，同年の本学会発足時から潜水医学を中心に，継続的な研究を展開してきた。2001年には現在の16名収容可能な3室構造の第2種治療装置設置後，臨床への積極的な展開を図り，2001年以来2015年4月までに，のべ9,186人，79,432回のHBO_2を実施した。対象患者は減圧症のほか，一酸化炭素中毒，突発性難聴等の救急疾患のみならず，この数年は晩期放射線障害が際立って増加し，糖尿病性足病変等の末梢循環不全患者における創傷治癒目的使用が増加している。2005年ごろからスポーツ選手における特に靭帯損傷，足関節捻挫，肉離れ等の軟部組織外傷急性期に対する適応を重ねている。A室（定員8名）4回/日，B室（定員5名）減圧症用として治療している（**図1**）。2014年実績では，症例数，治療回数それぞれ，減圧症213例，219回，一酸化炭素中毒15例，93回，突発性難聴84例，1,208回，晩期放射線障害56例，1,627回，スポーツ関連外傷154例，582回などで，計647例，6,282回，だった（**図2, 3**）。スタッフは，医員1名を含む医師4名はすべて他業務の兼任で，実質1.5名程度である。医師は24時間365日on call体制としている。専門医は院内3名である。HBO装置を操作するMEは6名で，2名ずつのローテンションとしている。会議や取り決めについては，高気圧治療部運営会議が開催され，病院運営会議への報告となっている。

比較的積極的なHBO_2の臨床実績を残しながら，卒前教育については極めて厳しい環境に置かれている。臨床を担う高気圧治療部は医学部附属病院の中央診療部として位置づけられ，積極的な研究者や大学院生の協力が得られにくい組織体系である。医学部学生および看護学部学生に対しての卒前教育では，2013年以前では「整形外科・外傷学」の講義中で，創傷治癒の一環として高気圧酸素治療としての紹介に限定していた。2014年以降，医学部4年生に対して1コマの講義枠が付与され，漸く体系的な教育体制の端緒を得た。HBO_2を理解しない医師，看護師も多い中，機会あるごとに積極的な卒前教育また卒後教育を実施することが望まれる。

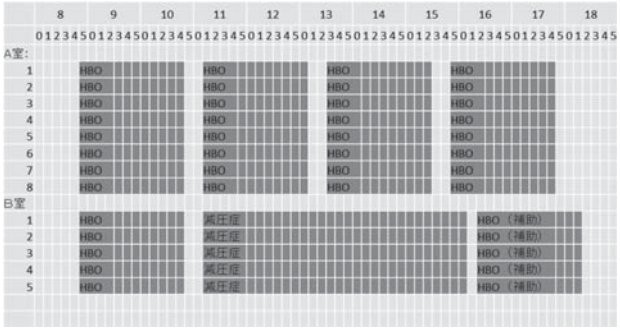

図1　当院での治療方法：A室は一日4回を原則とし，B室にて再圧治療が可能で，再圧治療は原則週3回としている。

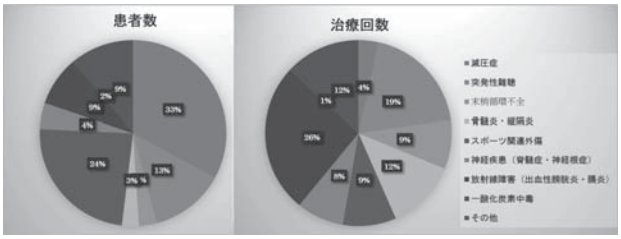

図2　本院における2014年度治療患者，治療回数

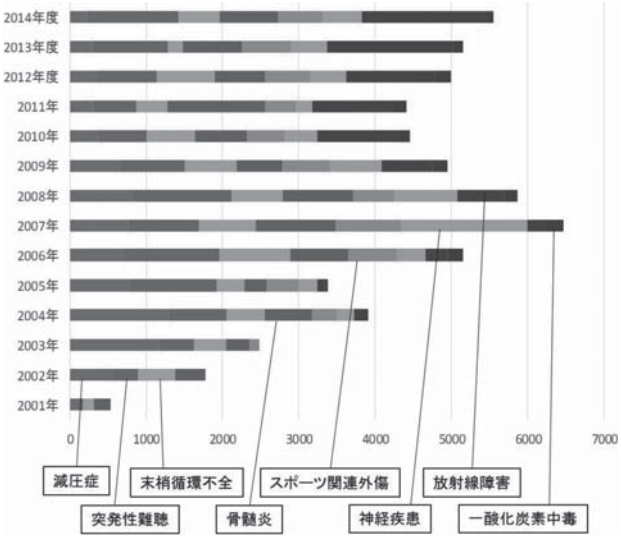

図3　疾患毎の治療回数　年次推移